

## 臙気な幼稚園のころの思い出



高 崎 斐 子

一八九三年（明治二十六年）三月に私は神田駿河台で生まれました。一八九七年四月に東京女子高等師範学校附属幼稚園に入園いたしました。さてその時誰に連れて行って貰いましたのか、少しも覚えて居ません。

たしか、下田たづとかおっしゃいます先生にお世話様になりました。（旧姓清水でいらっしやいましたのか、よく判りません）兄もその先生を存じあげて居りました。そのお姿は何となく今でも覚えて居ります。その他にお若い先生が二、三人おいでになつたようでございます。今思いますと、此の先生方は教生（実習生）でいらっしやったのかと思ひ当たつて居ります。

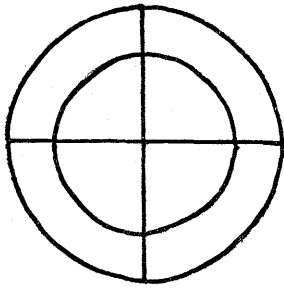
何の組と申す組分けの記憶もございませんし、また、胸にしる

しをつけた覚えもございません。そのころはお人数も少なかったのでございます。どうか、私の弟が入園いたします時（一八九八年）にはクジ引きになつたと母が申して居りました。

お部屋は広うございました。大きな黒板や先生のお机、オルガンも置いてございました。後の方の空いている所には衝立式の帽子掛がおいてございました。私たちはその頃ツバの広い帽子を冠りまして、うしろに長くリボン二本垂らし、正面には造花などをさして通園いたしましたものでございます。そして、その帽子かけにかけまして、いろいろな花やリボンの色などを眺めますのも一つの楽しみでございました。またお部屋の窓側の下には鉄の管が通つて居りまして、冬になりますとこれが暖かくなりますの

で、みんなでユタンポ、ユタンポと申しまして、ハンカチなどをその上に敷いて手をあたためたり、腰かけたりなどいたしました遊びましたものがございます。

お勉強やおうた、お遊戯、折紙、粘土、豆細工、むぎわら通しなどもいたしましたようでございますが、今のような「お絵かき」をいたしました覚えがございません。私が同附属小学校へ入学いたしました時折紙を習いました時は毛筆画で、お手本を見て半紙に毛筆でかきましたのでございますから、きつとその頃にはバステルとかクレヨンとかはもちろん、色鉛筆なども出まわって居らなかったのだと思います。折紙は先生が大きな色紙（風呂敷敷位に見えました）をお持ちになりまして、一段ずつ折ってお見せに



なり、私たちはその通りに習ってカプトなどを折りました。粘土細工は、粘土板の上に黄土色をしたひと塊の粘土と竹べらを頂きまして、いろいろな形をこねました。豆細工はふかして柔らかくしたまるい豆（碗豆？）とヒゴを頂いてそのお豆にヒゴを

さしこんで、三角や四角な箱形や弥次郎兵衛などを造りました。

おうたはお部屋でうたったり、遊戯室でお遊戯をいたしながらうたいました。このお遊戯室も広くて大きなオルガン（ピアノ？）がおいてございまして、お部屋の端の方にはいろいろな運動具（輪投げなど）が並べてございましたように思います。床には上図のような図が太い太い黒い線がかいてございまして、その線の上を歩いたり、大きな輪、小さな輪など作ったりいたしました。お遊戯の外に輪投げもよくいたしました。

おうたは左のような歌詞だったと思います。臆気ではございませんが、書いてごらんに入れます。

。風車 かぜのまにまにめぐるなり

止まずめぐるも 止まずめぐるも（繰り返す）

水車 水のまにまにめぐるなり

止まずめぐるも 止まずめぐるも（繰り返す）

。開いた開いた 何の花が開いた

れんげの花が開いた 開いたと思ったら

いつのまにかつぼんだ

つぼんだつぼんだ 何の花がつぼんだ

れんげの花がつぼんだ つぼんだと思ったら

いつのまにか開いた (繰り返す)

。わが箱庭よ 金魚のヒレに波立つ池よ

帆かけて浮かせしつけ木の舟を

むかいの岸に ふけふけ風よ……………

その他蝶々などでございました。いずれも身振り手振り、手先きなどで歌詞にあった表現のお遊戯をいたしました。

右記のつけ木は御存知でいらっしやいましょうか？

お庭は広うございました。廊下の出口からお庭に出ます時、ゆるい傾斜で両側に手すりのついている所を下りてゆくのが何となく楽しくございました。お庭には大小二つのお山が続いて居りまして、これに登ったり下りたりして遊びました。

ブランコもございました。木かげにはお砂場がございまして、いつも砂がしめついていたように思います。鬼ごっこやかけっこなどもいたしました。時々本校つづぎの大藤棚の方へもいってみましたが、花のさかりには美しうございましたが、そのようなことは覚えて居りません。

また、小さい花壇がございまして、一度そこに母がみのりまして、一粒ずつ取りましてお庭の手洗場で洗って紙に取り、お部屋に持って帰りましたのが嬉しうございましたが、それを頂いたのか、その味などは思い出せません。ある時お庭のすみに白い小さな花が咲いて居りましたので、それを摘みまして先生にお見せいたしましたしたら、先生が「それはドクダミという花でお手が臭くなりますよ」とおっしゃいまして手を洗って下さったことも思い出しました。

どういふわけかお弁当につきまましての記憶を持ちませんし、卒業式のようなことがあったのや否やもわかりませんで、いつのまにやら附属小学校第一部の生徒になって居りました。運動会とか遠足などの覚えもございません。多分なかったのではないかなどと考えて居ります。

服装は男児も女児も大方和服簡袖の着流しに、ヘコ帯でございました。冬はこれに簡袖の羽織を着たと思います。当時エプロンなどはございませんでした。時々洋服でおいでになる方もございました。私も時々洋服を着せられた覚えがございます。セーラー服などはまだございませんで、腰のあたりにゴタゴタとヒダがとってあったり、リボンのような飾りがついていて、鹿鳴館スタ

イルとでも申すようなものでございました。履物は皆皮靴だった  
 と思います。室内も室外もはき替えはいたしませんでした。形な  
 ど覚えて居りませんが簡単なものであったようで、紐を結んだ  
 り、解けて困りましたような思い出はございませんでした。

大体のところ、うる覚えではございますが綴つてみました。

なお、当時附属小学校は第一部、第二部、第三部とございまし  
 て、義務教育は尋常四年までであったとき居りました。

第一部は女兒のみ、一組で四十人位、尋常科四年、高等科二年  
 (合計六年間)。第二部は男児、女兒共学で、尋常四年、高等科四  
 年(合計八年間)。第三部は男児女兒共学で、無月謝ときいて居  
 りました。多分尋常四年までかと思いますが、よく存じません。  
 生徒もすくのうございました。また高等二年すれば中学校一年  
 に、高等四年を卒業すれば中等科三年に入学できました。

なお私は大正震災と昭和二十年戦災にあいながらも、附属小学  
 校の卒業証書と修業証は手元にございます。校長は高嶺秀夫先生  
 でいらっしやいます。

(一九七六年二月記 八十三歳)

杜撰ながら図を書いてみました。御笑覧下さいませ(高崎)

